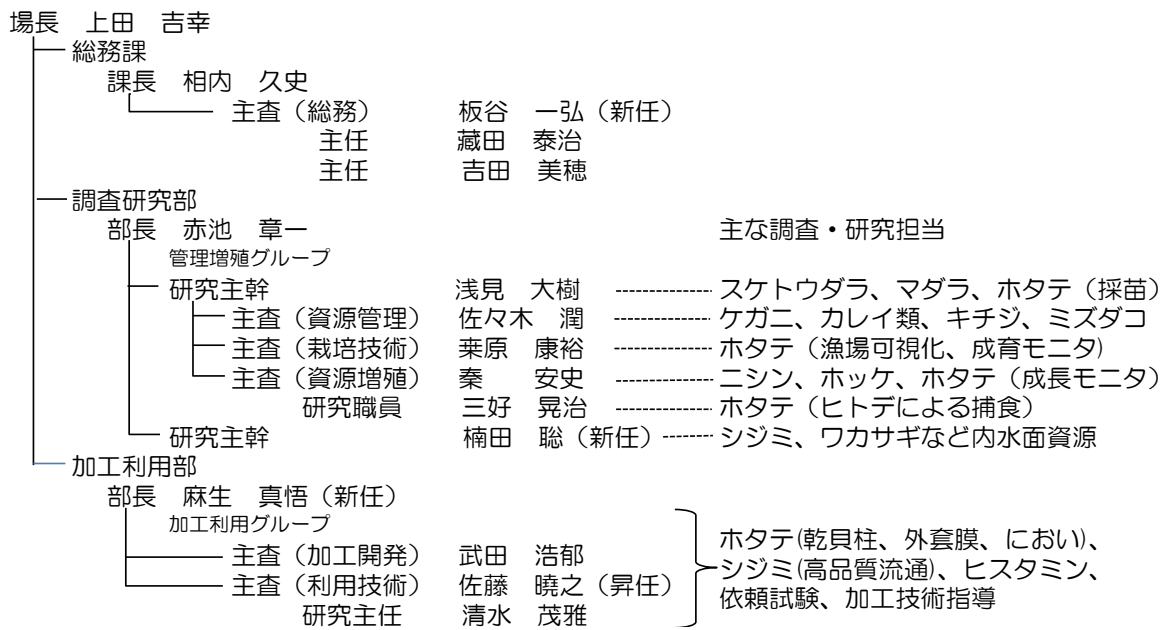


釧路では先月下旬、9年ぶりに流水が観測されましたが、同じころ東京では桜の開花が発表されています。管内ではケガニなどの水揚げも始まり、春の始まりを感じます。網走水試でも、この4月から新たな体制での調査・研究が始まりました。

▼平成29年度網走水試の組織体制と各職員の担当業務は下図のとおりです。調査研究部の永田研究主幹は退職して北海道栽培漁業振興公社に移られました。後任には、さけます内水試本場から楠田研究主幹を迎え、網走湖のシジミやワカサギなどの課題に対応していきます。紋別市にあります加工利用部では蛭谷部長と宮崎主査が釧路水試に異動になり、蛭谷部長の後任には釧路水試から麻生部長が、宮崎主査の後任には当場の佐藤主査があたります。総務課では松尾主査の根室海区漁業調整委員会への転出に伴い、渡島総合振興局から板谷主査が着任します。今年度も何人かの職員が変わりましたが、引き継ぎをしっかりと行い不備のないよう調査研究を進めていきますので、今後ともご指導ご協力をお願い致します。



▼調査研究部では今年度から新たに「ホタテガイ中間育成高度化技術開発」、さけます内水試と共同で「シジミの底質環境に関する研究」に取り組むほか、「ホタテガイ成長モニタリング調査」では春季の餌料環境を連続観測し、貝柱歩留不良予報の精度向上を目指します。また、「ホタテガイの採苗安定化」や「ヒトデ類のホタテガイへの捕食実態」、「ホタテガイ漁場のアカボヤ駆除」に関する課題は研究の最終年となります。

▼加工利用部では、今年度から新たに「ホタテガイ外套膜を原料とした乾燥食品の品質向上」に取り組むほか、引き続き「ヤマトシジミの高品質流通技術開発」、「乾貝柱製品の品質向上」、「道産水産物におけるヒスタミン蓄積に関する基礎研究」などに取り組んでいきます。

▼以前に No.57 で浜名湖は内水面漁業の扱いと書きましたが、海面漁業の誤りでした。お詫びして訂正いたします。(網走水試 上田)